

に弘まりし一代佛教の眞髓全く其價値を亡ひて、暮れ行く人世の闇は、終に滅するに由かけんのみ。之れ果して三界慈父の本意あるか？ 涅槃經には『譬へは七子の如く、父母平等をあらざるにあらざれども、然れども病者に於ては心則ち偏に重し』（法華取要抄）と説かせ玉ひしに非ずや。煩惱少き正像を治して、心病最も篤き末法愛子を捨て玉ふこと決してあるまじきなり。

(二)に後五百歲妙法廣布説とは、法華經に出づ。藥王菩薩本事品に云く、『我滅度後後五百歲中廣宣流布於閻浮提無令斷絶』普賢菩薩勸發品に云く、『守護是經於如來滅後閻浮提內廣令流布使不斷絶』と。然り兩品の文赫々たり。法華經の末法の大白法たることや。此を以て大集經の白法隱没を考ふれば、白法とは黒法即ち外道に對するの謂にして、則ち正像流布の迹門、並に爾前權小の教經を指すものあるや明けし。斯くの如く、末法の初期は正しく出世の本意たる一乘妙法蓮華經の流布すべき時なるが故に、末代本化の佛子は

忍難弘法、不惜身命、以て三毒の重病を治し、執權謗實の迷衆を醒悟せしめざるべからず。今を去ること既に六百餘年、正しく佛識に應じて本化大士日本國に出現し玉ひ、嚴に其洪範を垂示せさせ玉へり。而して末法は未來際に亘る、吾人後繼者は、宜しく其大任の双肩に懸れるを知つて進まずんば非ざる也。

## 歌日記より

亮

遠

あすはとてけふも暮しぬ人の世の

ふたゝひ來へきときからかくに

わこたりをそのよひことに悔ひながら

けさもわすれしわれや何なる

## 新年に

わこたりの去年はとかめし新らしき

くひのころにいきんとれもへは